

11月のGlobal Sessionレポート

期日：2025年11月29日(土)10:30～12:30

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：日置（へき）道代さん

コーディネーター：亀田博さん

タイトル：「嫁いだ家は武家の家～400年の歴史あり～」

参加費：600円

参加者：15名

概要

- ・主人と知り合い、23才で結婚し、日置家に
- ・娘が千歳の一宮幼稚園に行くため、千歳の家で両親と暮らす
- ・姑から日置の家のことを聞く
- ・家の中には、兜（カブト）、刀（カタナ）、槍（ヤリ）などがあった
- ・玄関の「長屋門」と、門前の「山陰古道」はよく撮影に使われていた
- ・蔵の中には、古い器や古文書、写真、江戸時代の花嫁衣裳、袴（かみしも）などがあった
- ・日置家の姑の話
- ・娘がアメリカ留学をした時の話
- ・「「へき亭」を始めたきっかけ
- ・インバウンドの受け入れスタート
- ・へき亭をしめたこと

参加者：15名

亀田（コーディネーター）さん：では、自己紹介から始めます。

H・Mさん：亀岡で木綿屋をやっています。

A・Nさん：昨年まで大本で仕事をしていました。今は、エスペラント語を広く知ってもらいたいと教えています。

Y・Hさん：生まれも亀岡です。総合商社で仕事をしていましたので、長く亀岡を離れていましたが、3年前に亀岡に戻ってきました。Global Sessionではいろいろな話しが聞けるので、参加をしています。今日は、歴史のあるへき亭さんを聞くのが楽しみです。

S・Fさん：亀ニケーション（京信さん主催）で、へきさんと出会い、たまたまこちらにおれる時間でしたので、来ました。生の声はじめて聞きます。

Y・I さん：京くろかる隊に参加し、日本語指導もしています。へき亭さんでは、フルートの演奏なども聞きに行つたことがあります。

M・TU さん：へき亭さんには、最後に行ったときを覚えています。食事も楽しませていただきました。

K・N さん：保津町に住み、米屋をしています。保津町の村おこしなどをしています。日置道代さんとは、18歳の時の自動車学校の同級生でした。

K・T さん：へき家の姪です。

M・T さん：歴史ある京都に住んでいます。歴史あるものを訪問するのが楽しいです。

N・F さん：亀岡市に住み、市役所で仕事をしています。400年もの歴史のある家について聞けるのが楽しみです。

K・T さん：亀二ケーションで出会いました。おかみさんとお話しするのが楽しみです。
(映像作家&脚本家)

M・F さん：この Global Session は、20年ほど前から続いていると思います。定年後に初めて宮前町にある国際センターに行ったら、英語でのセッションがあり、それ以来参加しています。それ以後は日本語でもありますが、世界の話も聞けるので楽しいです。私は、東映で仕事をしていたので、へき亭さんは、水戸黄門の映画つくりの頃から使わせてもらっていると思います。

児嶋：この Global Session は、1999年のオクラホマ州立大学が閉校したあとの、国際センターや亀岡交流活動センターになったときから始め、続けています。もう 20 年以上にもなりますね。

亀田さん：大津市から来ています。OSU-K の学生さんがいたところから、ツアーガイドとしてアメリカに行ったころからのつながりです。へき亭さんは、行ったことがなかったのですが、クローズされたという事が残念です。
では、日置さん、まず、自己紹介から始めてお話しをお願いします。



日置（へき）は、名字です。主人と知り合
い、日置家には23歳で結婚してきました。

昔は、25歳くらいに女子になると、「早く
結婚せい」と言われ、追い出されるような感
覚がありました。毘沙門という地域には、嫁
に行くな！などと言われていたようです。

それに、日置家は、江戸幕府の直轄地とし
て、代官をしていました。亀山藩の下ではな
かったのです。そのため、親や親戚中が反対していました。それでも、結婚し、2
年間ほどは、京都市内に住んでいました。でも、娘が生まれ、幼稚園は亀岡で
行かせたいと思い、帰ってきました。

主人とゆかり合い 日置家に23才で結婚



〒670-0004
兵庫県たつの市阿波川町高木
0797-21-0889

真正面に見ることができることで、旗本津田藩の代官を務めていました。また、日置流という弓道の祖とされています。

母屋は江戸時代に建てられ、脇を駆け抜けた門前の中には、京阪の都に通ずる旧街道があります。京阪の周りには、石垣土塀が當時のままの姿で残っています。撮影用としておどり、表門や土塀周辺は、時代劇などで使用されています。

たびたび使われる常磐は、古くから使用されておりました。また、土間にある常磐は、二条城へ登城するときには、使われました。座敷には、江戸末期に活躍した「円山応挙」と並び、「山」の拂絵や衝立が残しております。

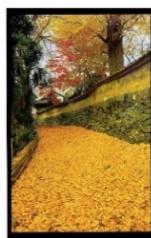
娘が千歳の一宮幼稚園に行ったり、千歳の家で両親と暮らすなど、当時の雰囲気を残しています。



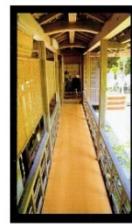
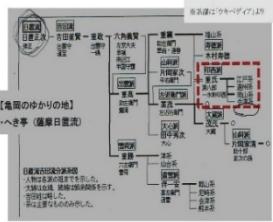
日置家の
ご案内



娘が千歳の一宮幼稚園に行ったり、
千歳の家で両親と暮らす



姑から日置の家のことを聞く



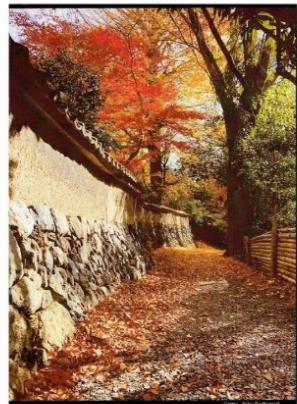
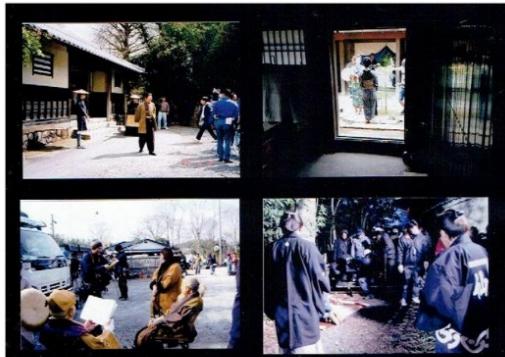
長屋門は閉まつたままの家でした。そのころから、東映の撮影隊が週に一回ほど来っていました。主人の母は、よく、「うちの家は武士の家やで。嫁さんにもらつてやった。」とよく言っていました。でも、寒くて、暗い家で、部屋は全部庭に面しているのです。

台風の時は、停電が怖くて電池をおいて寝ていました。座敷には、甲冑がおいてあり、普通は入らせなかったです。鎧かぶとや、槍も弓もありました。弓は日置流というのがあり、室町時代からの物が飾ってあったようです。槍も戦後 GHQ が来た時に提出する物件を出し、あとは、長い槍もおいてありました。鎌も大鎌と小鎌があり、教育委員会に鑑定を頼んでいますが。母は、「亀山藩には関係がない」と最初は断っていたようですが。私も古い物が好きで、蔵には古い食器もたくさんありました。

家中には、兜(カブト)、刀(カタナ)、槍(ヤリ)などがあった



玄関の「長屋門」と門前の「山陰古道」はよく撮影三に使われていた



Village という映画もここでロケがありました。昔の映画の素顔の俳優さんをたくさん見ました。



娘がアメリカ留学をした時の話



アメリカに行きました。当時はオーム事件があり、日本は危ないので、帰国しないと言っていたような時代です。娘がアパートに住んでいると、窓にさわったらポリスが来るようなことがあり、アメリカという国の印象が変わった感じがしま

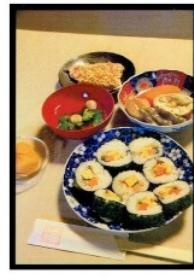
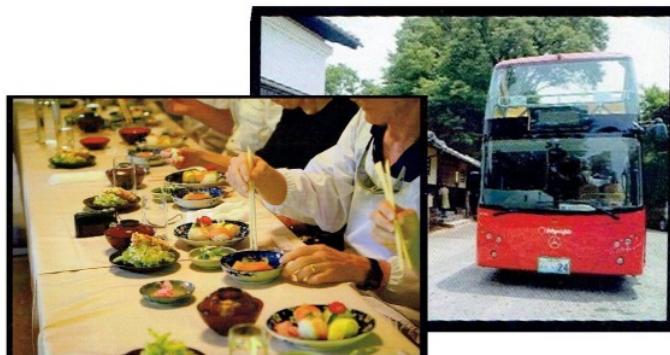
私がへき亭で料理を始めたのは、高校を卒業後、料理学校に行ったことも理由のひとつです。娘はお茶と料理も好きでやっていました。それと、英語が好きで大学時代にアメリカのサウスダコタに留学しました。4年後卒業して帰国しましたが。その間私も一人でア

「へき亭」をはじめたきっかけ



へき亭をはじめたきっかけは、最初パン作りを教えていたら、「この雰囲気の中でごはんが食べたい」という声があったからです。「こんな庭があるのはすばらしい」とも言われました。煮物もにんじん料理など、亀岡のおいしい野菜を使って始めました。最初は、近くの人に売ってもらいたかったのですが、「農協に出さねば」と断られていたのですが、そのうち、無人販売などもできるようになり、直接手に入れることもできるようになりました。

インバウンドの受け入れスタート



亀岡市も外国人訪問者を引き受けていて、農業体験をさせたり、料理体験をするのでと頼まれた事もあります。すし作り体験で作ると、「へらして。多すぎる」という人もいます。また、グルテンフリーを望むと言われ、困ったことがあります。日本の食材の醤油には、小麦を入れるので、すしを食べるときにしょうゆが使えないのです。

終戦 70 周年の記念の年に、1ヶ月ほど日本に滞在していたグループの中に、アメリカ の元退役軍人だった人がいて、進駐軍が町にでると、「Give me チョコレート」と子ども達が集まって来たそうですが、「日本は成長した」という人がいま



「八三」卦開大事



2年前にへき亭を閉めた理由は、京都新聞さんでは「高齢のため閉館に」と紹介されました。コロナ禍もあり、またやりつくした感もあったので、そろそろ潮時かと思いました。また、東京の人から「へき亭」を譲ってほしいと言われたので決断しました。日置家の存続も、分家がもう一軒あり、そちらに引き継いでいただけたのでお願いしました。お陰様で気持ちよく「へき亭」は閉店させて頂き

ました。ご清聴ありがとうございました。以上です。

亀田さん：質問のある方はどうぞ。

Y・Hさん：立派なかまえの邸宅ですが、買われた方は、保存できるのでしょうか？

日置さん：夫の母はいつも「亀岡は敵」と言っていました。長屋は西を向いていて、西から来る敵を見はるためとも言っていました。亀岡市は、こんな歴史のある家とは知らなかつたと言われています。

Y・Hさん：歴史のあるカブトや刀や鎧も売ったのですか？

日置さん：実は調べてみると、カブトや服などは作られた年代がちがうらしいです。日置家はもう一軒在り、江戸時代から代官を受けている豪農の家の人々です。こちらはあとで、一式をそろえたらしいです。刀にも銘があまり無いようです。江戸時代に建てた武家の家に見せるよう建てたらしいです。

ところで、役者さんもたくさん来られました。役所広司さんや、火野正平さん・北大路欣也さん・里見浩太郎さん・堤真一さん・松山千春さんなど。

「国宝」も撮ったようですよ。

K・Tさん：へき亭は江戸時代も亀山城を見はる役目があったのではないか？

日置さん：明治時代になると、家の土地がたくさんあり、少しずつ売って生活していたようです。夫の父は、公務員として働いていましたが。着物も男物の着物はあっても、女物はほとんど無いですし、足袋も修理に出したあとがあり、質素に暮らしていましたと思います。大正時代はニューヨークへ行ったと言う話も聞いたので、お金はあったのでしょうか。夫の母は、芦屋生まれでしたが。

代官時代、ここの殿様は、亀岡と江戸と美濃の大垣を往復していたと聞いています。

Y・Hさん：蔵のなかの古文書は？

日置さん：写真を撮って亀岡市がデータにしているようです。

A・Nさん：明治になると薩長の時代になり、徳川家にかかわりがあるのをどうしたかですね。

おいてある陣笠には、日置を「ひおき」と名前が描いてありました。

馬渕さん：家に箱がたくさんありましたね。

日置さん：入れてある建物は、明治期に建てたと聞いています。亀岡史誌を編集されている黒川さんは、「ゴミがほしい」と言わっていました。「建物自体の立て替えはない」とも。今もへき亭に古文書や写真は置いてありますが。正月も二日に来るお客様のためにおせち料理を作り、家の者は一日はお雑煮と少しのおかずだけを食べていました。亀岡の町とはちがう武家の家のしきたりを守っていたようです。

堂本印象さんも、手紙がありましたが、疎開する家を探して保津の家に来たようです。夫の父の弟は、フィリピンで戦死しています。

亀田さん：みなさん、感想があれば、どうぞ。

Y・H さん：歴史のある屋敷をよく譲渡されたなあと思います。

日置さん：これは、主人の家で、自分の家ではないという感覚です。女が守ると言われて来ましたが、娘も家の内情をよく知っているので。

K・T さん：亀岡にいましたが、へき亭さんことを知りませんでした。料亭と聞き、つながりができました。亀岡もひとすじ縄では行かないなあと思います。

亀田さん：今までの外人さんのリピーターの方たちとの連絡は？

日置さん：ガイドさんとは連絡がとれます。コロナ禍でしばらくなくなった時期もありましたが。へき亭と関わってくれるお客様は、大切にしたいと思っています。

今は、鐘タクシーカーの経営にも中国の方が入り込んでいるようですね。

M・F さん：刀などもよくさびなかつたですね。

日置さん：長船（おさふね）などもあり、売るのはさみしいです。亀岡市は貴重な財産をどうして残さないのかなと思います。

M・F さん：その辺は七福神めぐりもありますが、ガイドの会も知らなかったと思います。

へき亭さんの東側に、大本さんの持つ「毘沙門荘」あり、立派な欄間もあるような。

A・N さん：元の形を残していくのは、むずかしいですね。今の資料館の場所では無理ですね。

M・F さん：トロッコ電車や、保津川下りやサッカーでたくさんの観光客が亀岡には、来られるようになったので、この歴史も学んでほしいですね。

亀田さん：では、時間が来ましたので終わりにします。もっと感想があれば、児嶋さんにメールで送ってくださいね。

